

伊東市総合計画 第7回 未来ビジョン会議 プレゼンテーション <結果概要>

〈開催日時〉 2019年11月18日(月) 19:00~20:30
 〈会場〉 伊東市役所2階中会議室
 〈参加者〉 未来ビジョン会議委員18人
 市長、中村副市長、若山副市長、高橋教育長、奥山理事、
 杉本企画部長兼市長戦略監

〈内容〉

第6回未来ビジョン会議では、各グループのテーマにあわせて、将来像を実現するために必要な取組や施策、あるいは自分自身がやってみたい活動や取組について意見交換しました。

第7回未来ビジョン会議では、第6回の意見交換の結果をまとめ、市長・副市長、他参加者の方々に向けて、プレゼンテーションを行いました。各グループの発表内容については次頁のとおり。

グループ1	グループ2	グループ3	グループ4
テーマ1 医療、健康、福祉分野	テーマ2 都市、中心市街地、 環境分野	テーマ3 教育、歴史、文化分野	テーマ4 観光、農林、水産、 商工分野
4人(1人欠席)	5人	5人	4人(1人欠席)



グループ 1 医療・健康・福祉分野

(主な内容を掲載)

●情報が欲しい人の所に届いていないことが問題

- ・申請をしないとサービスを受けられない、助けてもらえないことは問題であり、制度を広く知らせる手段が大事。
- ・介護予防や子育て関係、産後ケア等の講座・教室に足を運べる人もいるが、外に出てこれない人の声も直接伺うことが必要。情報を知ること、届ける事が重要。
- ・情報共有の点で、行政だけでなく民間や地域住民が一体となって、困っていること、助けたいことについて早急に対応する必要がある。
- ・多様な社会の中で求められることはたくさんあり、明確な方向性を1つに絞れなかったが、引きつづき行政や市民が一緒になって考えていくことが大事。

市民病院の充実

- ・市民病院の施設は充実しているが、より安心して頼れる市民病院になってほしい。

相談窓口の充実

- ・子育てや医療など、困ったときに教えてくれる所があるとよい。

予防医療

- ・予防医療に力をいれてほしい。行くといいことがあるような健診や地域活動をしながら参加できる健診があるとよい。

「バースあんどピース伊東」の活用

- ・「バースあんどピース伊東」(10代の子がラインで相談できる窓口(子育て支援課))の相談日が毎週水曜日のみであるため、利用しにくい。いつでも相談できるようにしてほしい。

市民便利帳「With」の利用、普及

- ・市民便利帳「With」(市政戦略課発行)がきちんと市民の手に行き渡り利用されるようになるとうい。

子育て世代や高齢者の居場所づくり

- ・子育て世代や高齢者のための、地域における居場所が求められている。空家や空き店舗等を活用し、コミュニティ、リハビリ、子ども食堂、教育等の支援を行うのはどうか。



グループ2 都市、中心市街地、環境分野

(主な内容を掲載)

■将来像「ひ孫と暮らせる街伊東」

- ・全世代と一緒に暮らしやすいまちをつくっていったらよい。

■都市

<理想>

- ・目標人口10万人を掲げる。
- ・遊休地等がうまく活用されている。市民向け施設が充実している。渋滞が無い。温泉地を活用した観光系の専門学校がある。キャンプ地として最適なまち。

<取組>

- ・空家バンクの推進。
- ・市内に多く余っている農地を一般人が借りられたり買えたりできる仕組みをつくる。
- ・企業誘致をするための固定資産税の免除。
- ・若者人口を増やすための専門学校の誘致。
- ・市バスの割引導入や行政が民間事業者を支援。
- ・伊東市民バス。(バス、タクシー、電車キャッシュレスの環境)
- ・新幹線が停まる、伊東モノレールの開通。
- ・高齢者や車を運転しない人のために、スーパーや病院へのシャトルバス、移動型のスーパーをつくる。
- ・子どもの通学路における街路灯の設置(行政による補助)、公園整備の推進。

■中心市街地

<理想>

- ・「駅前の活性化」「これだ!!というもののある街」「回遊性の高い街」「鎌倉みたいな商店街の空きがない」「大型集客施設」「企業の設置」

<取組>

- ・温泉施設と観光施設とのコラボ。
- ・ウォーキングコースの再整備。
- ・オープンマルシェや夜市の環境づくりの施策の推進。

■環境分野

<理想>

- ・伊東市の自然環境・自然景観は素晴らしく、将来も維持されていること。
- ・「防災の街伊東」一流の防災体制が整っていること。

<取組>

- ・避難所の充実、防災センター・同報無線・避難車両の整備。高齢者がすぐに避難できるよう避難路の整備を進める。
- ・よりよい住環境のため、行政にゴミ収集箱・倉庫等の設置を進めてほしい。市民がごみ分別とごみ収集場所の管理維持を行う。
- ・防災活動として、消防署の定期的な訓練、講習会を行い、消防団の経費を拡大して自警団としての力を強めていく必要がある。



ひまご
とくし
伊東

理想の伊東市

グループ2

※ ひまごと暮らす伊東街

都市

土地利用

人口105人

観光客が
たくさん来て
渋滞が少い

専門学校
伊東市から
出ない!!

交通の理想

銀向川発着
のバス

安心して住める
遊休地の活用

ファンゾの街
伊東
(~~伊東~~ 伊東)

中心市街地

中心市街地の理想

「中心市街地」
という概念がない

回遊性の
高い街

鎌倉みたいな
商店街のイメージ
がない

駅前
活性化

これだ!!
というものが
ない

大型集客施設
企業
設置

環境分野

住環境の理想

自然環境が
維持されている

防災の街
伊東

防災の理想

自然景観が
維持されている

一級防災体制
備え、この一

理想実現のために

空き家バンク
農地も一般人が
借りられる。買える
仕組み

企業誘致のため
固定資産税の
免除

専門学校の
誘致

中バス(市民割)
アクトビュッティング

新幹線
が通る

伊東モデル
開通

伊東市バス
バス・タクシー
相互連携

買い物難民
救済システム
e-スーパー 病院、銀行
へネットバス
の移動スーパー
街路灯
の設置

公園の整備

各団体の
一本化
(華券)

他業種との
連携

食事・温泉
交通・旅館
観光士への対応

ウォーキングコース
再整備

オープンエッジ
夜市

3セク
指定管理

避難所の
充実

防災センター
同報無線
防犯カメラ

ゴミ収集車
の整備

ゴミ収集箱
(倉庫等)の設置

ゴミ分別の
推進

消防署の
定期的な訓練
講習会
(細かい地域ごと)

自警団の力
(組織強化)

ゴミ収集場所
の管理・維持

グループ3 教育、歴史、文化分野

(主な内容を掲載)

■将来像「人が育つ未来のまち」

- ・歴史・教育・スポーツは、小さな子どもから高齢者まで、何歳になっても学んでいけるものであり、各分野で人と人がつながり、お互いに育って行けるようなまちになったらよい。

■歴史・文化

<自分たちで取り組めること>

- ・祭り文化の伝承
- ・伊東の歴史・文化がテーマとなる絵本や本、紙芝居を製作し、読み聞かせる活動を市民団体やNPO団体に協力を仰ぐ。あるいは、中高学生が制作し、幼稚園・保育園・小学生に伝えていく。

<行政に期待すること>

- ・文化を継承するうえで、まちおこし団体などへの支援を厚くしてほしい。
- ・伝統文化を発表する場として、コンサートホールを整備してほしい。

■スポーツ

<行政に期待すること>

- ・合宿の聖地を目指してほしい。小中学校の合宿であれば親もついてくるので、ホテル等を利用することでより観光収入も手に入る。また、小学校の統廃合跡地を合宿施設として活用したらどうか。
- ・合宿がしやすいスポーツ施設の環境整備。(スポーツ施設・体育館・市民体育センターの整備、グラウンドの人工芝化) 公式になれば、大学野球のキャンプ地やプロ野球選手の練習地になる。

■教育

<自分たちで取り組めること>

- ・情報教育に関連する所で、市民団体が出前授業という形で、子ども達によい所・危ない所を伝える活動をしてはどうか。
- ・学校に通えない子どももいるため、心・体のケアの方法を勉強する。
- ・キャリア教育として、自分達の近い目標や将来の自分の理想の姿を考えるような授業を行う。市民団体・市民・保護者などが講師となって協力してはどうか。
- ・学校統合の問題。子ども達の部活の選択肢が限られる。中高が連携して交流しながら部活をしたり、指導できる一般の方に協力してもらい、校外学習をしたり、部活動を盛り上げたりする。

<行政に期待すること>

- ・校内無線 LAN やスクールカウンセラーの充実。

●新構想高校への積極的介入

- ・市内1つの高校になるため、新構想高校が失敗すれば、将来地域を担うリーダーが市外に流出してしまう可能性がある。地域の子どもの地域で育てるような環境づくり、地域を盛り上げる若い世代のリーダーをつくるために、市との協力体制を築いて、起爆剤となる新構想高校を推してほしい。



<3グループ> ★教育・歴史文化・スポーツ★

人が育つ
未来のまち

《歴史》 《教育》 《スポーツ》

自分たちで出来る事

祭り文化の
伝承

絵本の
読み聞かせ
伊東がテーマ
の本年度夏居集
学生が作る
→下の子供たちへ

市民団体
が情報教育
早出勤授業

私たちの
できること

地域の人が
協力する
教育現場づくり

町民新田の
職業体験の場を
提供

働き先と協働
積極的利用

部活指導
校外学習等
(外部支援員)
協力

心体のケア

キャリア教育

外部から
来客創造できる
講師を呼んで

★合宿の聖地

行政に期待する事

手おこし団体
への支援を
厚くしてほしい

コンサート
ホール

市立中高-夏校
スモールカウ
ンセ-
支援員への
増や

若者の意見
を言える場
作り

幼児で
人への思いやり
を子供達に
自主的に話せる
機会

地域教育
充実

児童用タブレット
校内無線
LAN

新構想各校への
積極的介入!

学生の意見を
くみ上げてほしい。
部署を設けて
NPOなど行政が
支援

トレーニング
施設

クロス
カントリー

合宿場

大型
体育館

水泳場

グラウンド

統合した小中学校
を合宿施設として
再利用

中道連立の
スポーツ施設の
充て

グループ4 観光、農林、水産、商工分野

(主な内容を掲載)

●観光を盛り上げることで農林・水産・商工が盛り上がる

- ・観光を盛り上げることで農林・水産・商工が盛り上がる。そのためには、民間と行政とタッグで必ず進めていかなければいけない。
- ・観光、農林水産、商工としては、必ず民間とのタッグが必要になる。民間の意見を活かしていくシステムを構築する必要がある。

■観光の活性化

- ・若者から意見をきく風土をつくりあげることで、古い考え方を改善していく必要がある。
- ・文化レベルの向上は、観光の中でもすごく大きな課題である
- ・たくさんの姉妹都市をつくり、そこで伊東市の情報発信をすることで、広く情報発信することが可能になる。また専用の広報チームをつくり、情報を発信していくことが必要。
- ・民間としてミニイベントツアーや接客クオリティの向上が必要。外の情報収集、流行への敏感性を民間が身に着けていく必要がある。

■農林水産業の活性化

- ・農林水産について、大学と連携して従事者の確保を行っていく。若い人が就職できるような働きかけを行う。
- ・魚が獲れないと水産が成り立たないので、稚魚放流を行う補助金を増やしてはどうか。
- ・民間では体験ツアーの実施、農泊、漁業などの体験、外国人への積極的プロモーションが必要。
- ・魚市場の観光スポットができればいい。
- ・耕作放棄地を再利用して民泊との併用し、週末の家庭菜園できる場所として貸し出すなどの事業ができるのではないかな。

■商業の活性化

- ・店舗誘致活動をどこかの民間会社が担い、気軽に商業を始めるきっかけをつくりだすことができないか。
- ・店舗・ホテルの経営に向けて外国の方をもっと誘致したいため、外国の文化を学ぶ研修などを市や商工会議所等が開催してほしい。



